

【香川県三豊市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市では、「多様な他者と協働し、探究し続ける力の育成」を教育目標とし、学習の中で「対話」と「自問自答」を取り入れた授業づくりを行っている。「対話」では、根拠をもって自分の意見を述べること、「自問自答」では、自分の考えや友だちの考えから、新たな問いを見付けることが必要である。そして、これらの実現に向けて、1人1台端末をはじめとするICT環境を積極的に活用し、「対話と自問自答のある学び」を通して、多様な他者と協働しながら粘り強く挑戦し続ける児童生徒の育成を目指している。

また、学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力を育て、1人1台端末上でクラウドによる収集分析を行った学習ログや教育データから自らの活動を振り返らせることで、第4期教育振興基本計画（令和5年6月16日）に掲げる「デジタル人材の育成」を、本市として強く推進していく。

2. GIGA第1期の総括

1人1台端末の整備および校内通信ネットワークの整備を令和2年度に完了した。令和3年度よりAIドリルを導入、令和4年度より授業支援システムを導入し、ICT利活用は、特別ではなく日常化し、市内小中学校で定着しつつある。

ただし、学校間・教員間での利活用率の差が大きく、有効な活用ができていない学校があるという課題が表面化した。これについては、利活用が進まない原因を追究し、課題解消のための研修を実施したり、市内での先進的な実践事例を気軽に共有したりする場を設けるなど、改善を図っている。

また、GIGA第1期においては、想定できない端末の故障に備えるべく、動産総合保険にも加入し、不意に発生する端末の破損や不具合に備え、迅速に対応してきた。第2期においては、予備機を活用した運用で、これまで同様に、必要な端末を欠くことなく、ICT環境が維持できるよう努める。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用について

学校間・教員間での端末利活用状況の差を埋めるため、ICT活用に関する研修を計画的・定期的実施するとともに、各校での実践事例を横展開できるプラットフォームを構築する。これにより、全ての教員へ効果的な利活用の情報を提供することができ、使ってみたいと思ってもらえる意識を高めていく。

また、1人1台端末の活用を教員の指示がある場面のみとせず、児童生徒自身に委ねることで、児童生徒それぞれに最適な学び方を提供することができ、真に「学ぶための道具」として端末を活用することができるような授業への見直しを実施する。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実について

学習者用デジタル教科書やAIドリル等を活用し、児童生徒一人一人にあった方法で学習を進めるとともに、教育ダッシュボードを構築して可視化することで、児童生徒は自身の学習を振り返り、

教員は個々に適した指導を実施していく。

また、学校教育活動全体を通して、児童生徒が主体的・協働的な学びを実現するため、有効に端末を活用することができるように支援していく。

(3) 学びの保障について

不登校児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒、障がいのある児童生徒などについては、本市もコロナ禍に取り組んだ遠隔・オンライン教育やオンデマンド授業を発展させ、個々の状況やニーズに応じた端末の活用方法を検討するなど、個に応じた支援を充実させる。